

岡山県の地震

令和3年(2021年)6月

目次

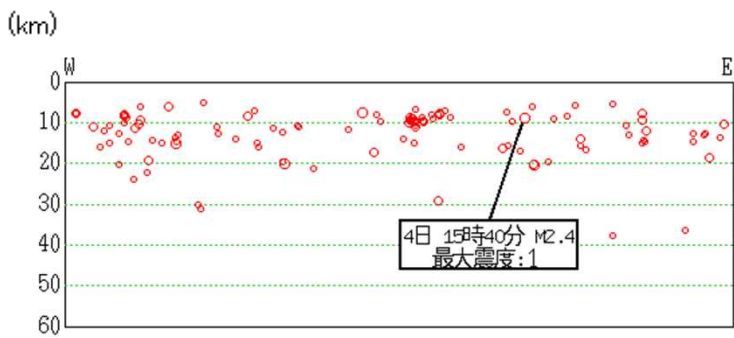
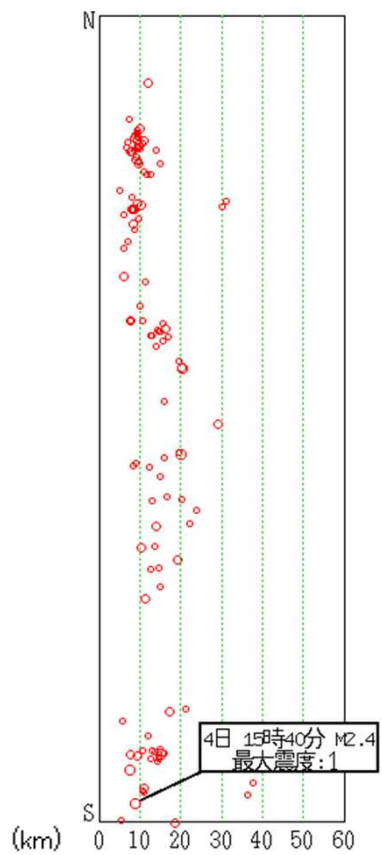
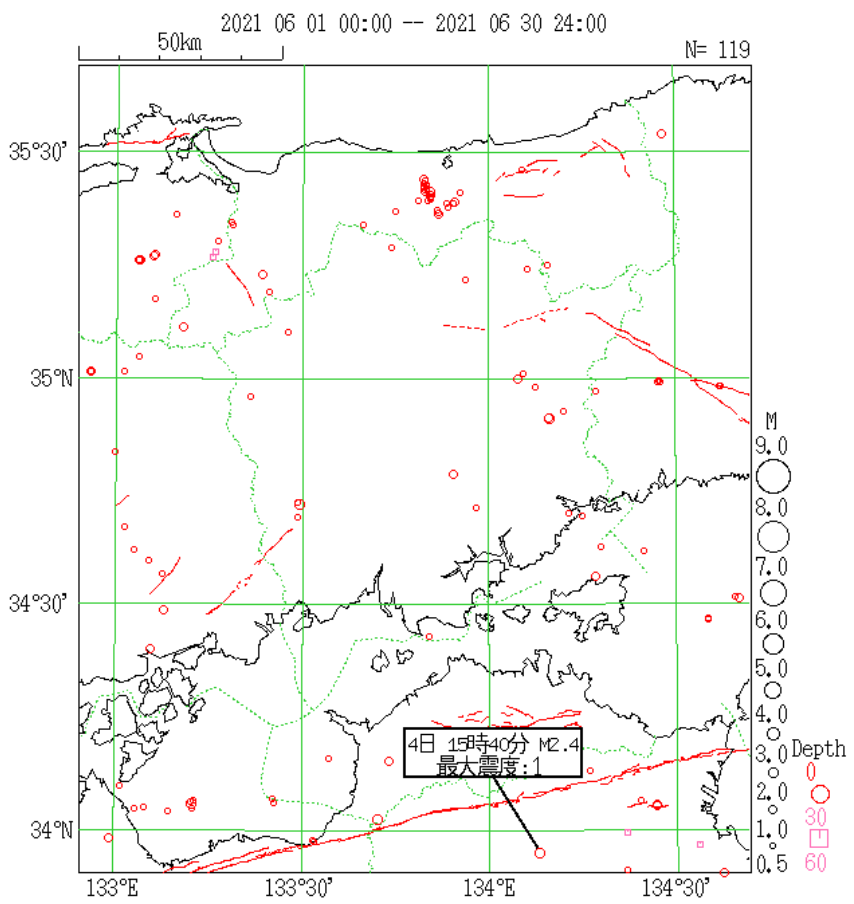
○岡山県及びその周辺の地震活動（6月）	
震央分布図及び断面図	… 1
概況	… 1
岡山県において震度1以上を観測した地震の表	… 2
岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図	… 2
○地震防災メモ No.186	
強い揺れに備えて	… 3

- 「岡山県の地震」は、月1回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」により地震、津波に対する防災知識の普及等に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。
- この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

岡山地方気象台

岡山県及びその周辺の地震活動(6月)

震央分布図及び断面図



左上 震央分布図（地図内の細線は活断層を表しています。）
 右上 南北断面図
 左下 東西断面図

図中の注釈（吹き出し）は、震度1以上を観測した地震について最大震度などを表しています。

概況

6月の概況

- ・上図の範囲内で6月に震度1以上の揺れが観測された地震は1回（前月：3回）でした。
- ・岡山県で震度1以上の揺れが観測された地震は6月中に1回（前月：2回）あり、そのうち震央が上図の範囲内での地震は0回、範囲外での地震は1回でした。

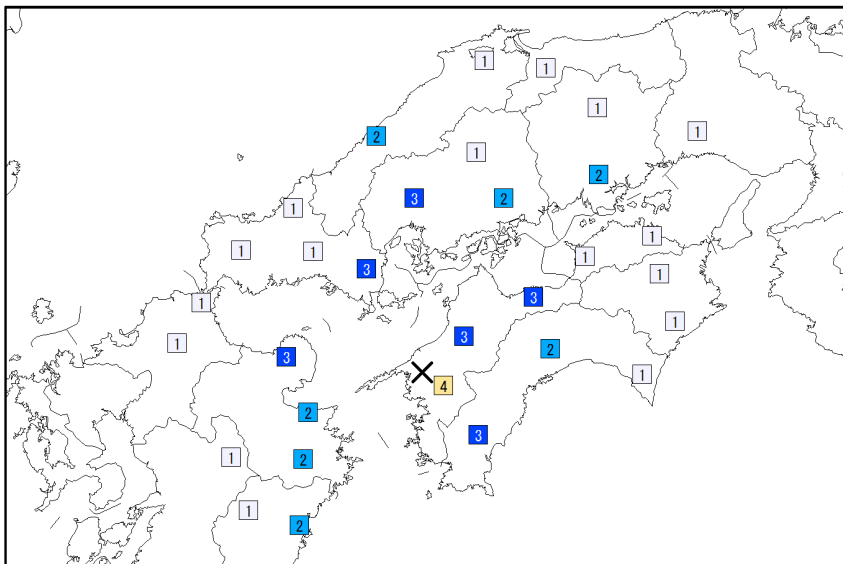
岡山県における震度1以上を観測した地震の表(6月)

2021年06月19日07時39分 愛媛県南予	33° 27.6' N 132° 30.8' E 42km M4.7
----- 地点震度 -----	
岡山県	震度 2: 倉敷市児島小川町*, 岡山南区片岡*
	震度 1: 津山市中北下*, 新見市唐松*, 真庭市下方*, 真庭市禾津*, 倉敷市新田 倉敷市沖*, 倉敷市下津井*, 倉敷市白染町*, 倉敷市真備町*, 倉敷市水島北幸町* 倉敷市玉島阿賀崎*, 倉敷市船穂町*, 笠岡市殿川*, 笠岡市笠岡*, 井原市井原町* 総社市中央*, 総社市地頭片山*, 総社市清音軽部*, 高梁市原田南町* 高梁市備中町*, 高梁市松原通*, 備前市東片上*, 和気町尺所*, 和気町矢田* 早島町前潟*, 矢掛町矢掛*, 瀬戸内市邑久町*, 瀬戸内市長船町*, 赤磐市上市 浅口市天草公園, 浅口市寄島町*, 浅口市鴨方町*, 浅口市金光町*, 岡山北区足守 岡山中区浜*, 岡山東区西大寺南*, 岡山南区浦安南町*

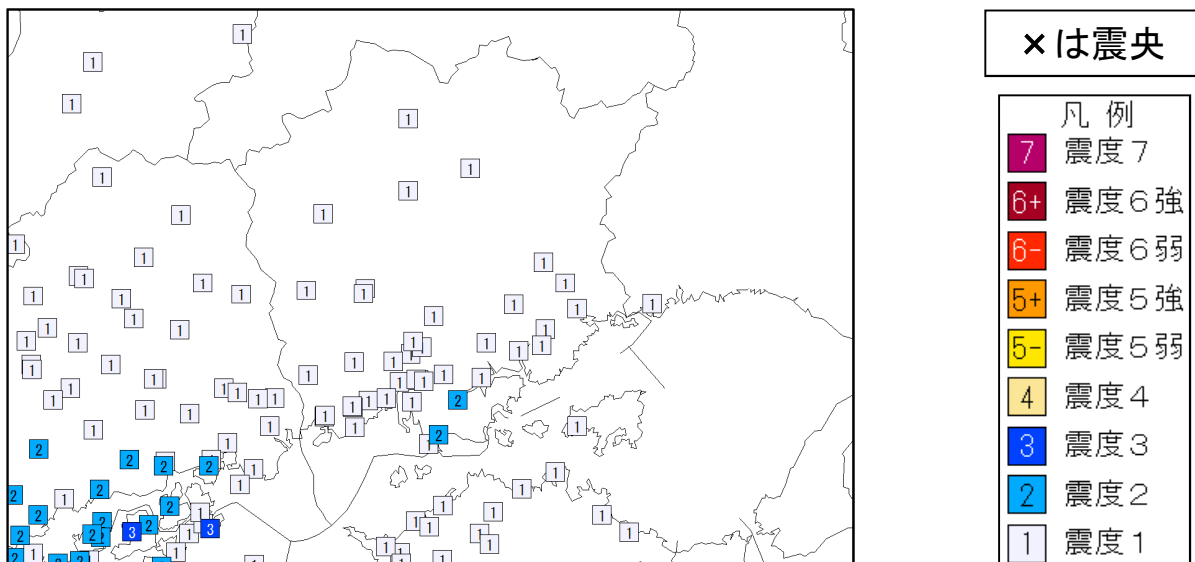
- 注) 1 内容は暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。
 なお、地震データの確定値は『気象庁地震・火山月報(カタログ編)』に掲載されます。
 2 地名の後に*印を付したものは、岡山県又は防災科学技術研究所の震度観測点です。
 なお、震度は気象庁震度階級表によるものです。

岡山県における震度1以上を観測した地震の震度分布図(6月)

2021年06月19日07時39分 愛媛県南予の地震
 各地域の震度分布



岡山県及び周辺観測点の震度分布



強い揺れに備えて





世界的に見て、日本は地震の多い国であり、強い揺れにみまわれる確率が「0」である場所はありません。日頃から関心を持って、地域の地震被害想定等（最大震度、津波浸水や液状化を含む）を調べ、強い揺れへの備え、非常持出品等の準備、連絡手段・避難場所・避難経路の確認などの備えを、できることから確実に進めておくことがとても重要です。

規模の大きな地震が発生した時、強い揺れに耐えられるかどうか問題となります。新しく建てられた、新耐震基準を満たす建物であれば、震度6強～7程度の揺れでも倒壊しない強度を持っていることとなります。建物が古く、強度が不明であれば確かめる必要がありますし、不足している場合は補強する必要がありますが、取り掛かりが難しいかも知れません。（昭和56年5月以前の旧耐震基準で建てられた建物について、住家であれば、耐震診断を受けたり耐震補強を行う際に補助金が出る制度を設けている自治体もありますので、相談してみるのが良いと考えられます。）

次にできる、強い揺れに対する備えとしては、家具等の耐震固定があります。下の表は、気象庁のリーフレット「その震度 どんなゆれ？」[※]から、家具に関するイラストや表現を抜き出して整理したものです。震度6弱以上では、固定していない家具の多くが移動したり倒れたりします（人に対する揺れとしては、震度6弱で立っていることが困難であったり、震度6強以上では揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされるようになりますので、家具が単に動いたり倒れたりする……ということではなく、かなり激しく動いてぶつかったり、倒れたりします）。

表「その震度 どんなゆれ？」（一部抜粋）

※ <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/kaikyuhyo/kaikyuhyo.pdf>

				 <p>例) 2001年 芸予地震</p>		 <p>例) 2000年 鳥取県西部地震</p>	
不安定な家具	固定していない家具						
倒れる	移動する	倒れる	大半が移動し、倒れるものがある		ほとんどが移動し、倒れるものが多くなる		
	ことがある						

その結果、地震の際にケガをしたり、部屋の戸が開かなくなって避難できなくなったりします（東京消防庁の「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」によると、地震でケガをした人の内、30～50%の原因が家具類だったそうです）。

なお、書棚や食器棚などについては、棚を固定するだけでは不十分です（ベルトを付けたり、扉をロックしておくなどの対策をしておかないと、中の本や食器が飛び出して落下し、真の目的を達成できないこととなります）。